

秋の講演会

「聴覚障害幼児の療育について ～聴覚活用とコミュニケーション～」

国立身体障害者リハビリテーションセンター学院教官

中村公枝先生



11月2日、秋の講演会が開催されました。会場は大阪市内の地下鉄松屋町駅近くの味覚糖UHA館、昨年と同じ会場での開催となりました。会員の皆様から多くの要望をいただいております幼児の聴覚活用とコミュニケーションを柱として、

中村公枝先生にご講演いただきました。

当日は100名近くの参加があり会場はほぼ満員となりました。

詳細は3月中旬発行予定の収録をご覧ください。

冬の学習会

「新生児聴覚スクリーニングと早期支援について」

田中美郷教育研究所所長、帝京大学名誉教授、神尾記念病院

田中美郷先生



1月18日(土)、「新生児聴覚スクリーニングと早期支援について」というテーマで田中美郷先生を講師にお招きし、冬の学習会を京都テルサで行いました。(今回の学習会は、京聴障研、日本補聴器販売店協会近畿支部京都部会との共催)

現在、各地で新生児聴覚スクリーニングの取り組みが始まりシステム作りが急務となっています。講演では、田中先生が長年早期支援に関わってこられた経験をもとに、今後どのような視点で聾学校が支援体制の一員として関わっていくべきなのか、示唆に富むお話を聞かせて頂くことができました。この講演記録は後日会員の皆様に配布する予定です。

近畿教育オーディオロジー研究協議会のホームページ

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/non007/>

各地の研修会など情報をお寄せください



第3回代表委員会から

1月17日(金)京都府立聾学校で代表委員会が行われました。

以下の報告がありました。

- ・平成14年度の会員数は252名
- ・平成14年度12月末までの収支状況について

引き続き、来年度(平成15年度)の計画について検討しました。

・日程及び会場(変更になる場合があります。)

第1回代表委員会	5月16日(金)	大阪市立聾学校
第2回代表委員会	8月18日(月)	大阪府立生野聾学校
第5回講演会・講習会	8月19日(火) 20日(水)	大阪府立生野聾学校、ホテルウィーナ大阪
秋の講演会	11月1日(土)	味覚糖UHA館(大阪市内)
第3回代表委員会	1月16日(金)	滋賀県立聾話学校
冬の学習会	1月17日(土)	(滋賀県内)

来年度の講演会の講師が決定しました。

- ・第5回講演会 鷲尾 純一 先生(筑波大学) 秋の講演会 伊藤 泉 先生(みやこ園)

クロスワード

枠にはアルファベットが入ります。葉書に答えを書いてお送りください。抽選で1名様に右の写真のおもちゃをプレゼントします。2400Hz 付近が強く出ます。



タテのヒント

自動的に新生児の聴性脳幹反応を測定する聴覚スクリーニング
自動聴性脳幹反応検査
蝸牛内の基底板が、大きな音よりも聴力の閾値に近い小さな音が入った場合に振幅が更に鋭敏に増大する、能動的に動く外有毛細胞機能に由来する現象 耳音響放射
高橋潔先生らによって提唱された、それぞれの障害の程度に合わせた適性教育 システム

ヨコのヒント

音や声に対する反応を観察して聴力の閾値を求める検査
聴性行動反応聴力検査
C O R (条件詮索反応聴力検査)の別名

参考文献

聴覚検査の実際 日本聴覚医学会編 南山堂
手話賛美 川淵依子編著 サンライズ出版

プレゼントのご応募は

〒520-3014 滋賀県栗東市川辺664 滋賀県立聾話学校 聴力検査室 まで

ご好評につき

読んでみました第2弾



このコーナーでは機関誌担当者が実際に購入した本の中から教育オーディオロジーに関連した内容の本を紹介しています。前号で3冊紹介したところ多くの反響が寄せられましたので今回も3冊の紹介です。



重複障害児の
聴力評価と聴
覚補償に関す
る研究
鷲尾純一 著
風間書房
6000円

ISBN4-7599-1049-2

本書では知的障害、ダウン症、脳性まひなどの障害を持つ幼児、児童に聴覚障害を併せ持っていることが少なくないこと、聴覚障害を併せ持つ重複障害児の聴力検査と聴覚補償の重要性が述べられている。聴覚障害児教育のみならず障害児教育に携わる方々にお奨めしたい1冊。

風間書房からは上記のほか、聴覚障害児の発音技能の形成、読話、比喩の理解など、それぞれに関する研究をまとめた本が発刊されているので興味のある方はこちらも合わせてご覧いただきたい。



語聴覚療法シ
リーズ5
聴覚障害 -
基礎編
山田弘幸
佐場野優一
編著
建帛社
2400円

ISBN4-12-101598-3

シリーズ全16巻の第5巻
聴覚生理・病理、各種聴力検査、補聴器の仕組みから装用の評価までと幅広い内容。この1冊で基礎編の名の通り知っておきたいことが網羅されている。

総論、聴こえのしくみと障害、検査法、人工内耳、補聴器の順に写真や図を多く配置してわかりやすく解説している。

ちなみにシリーズ第6巻は聴覚障害 - 臨床編、第1, 2巻はそれぞれ聴覚言語障害総論、となっている。



音入門
聴覚・音声科学
のための
音響学
チャールズ・
E・スピークス
著

荒井隆行 菅原勉 監訳
海文堂

3500円

ISBN4-303-61020-8

入門という名にひかれて購入した。数学や物理の知識を必要とする数式が出てくるが、本書の監訳者のことばを借りると「文系にもわかりやすい本を目指し」てつくり、音の性質やデシベルなどの用語の意味が本質から理解できるように物理学的な側面を中心に書かれている。とは言ってもページをめくるとたちまち数式が飛び込んでくるのだが、他の音響学の専門書と比べれば多いということはない。丁寧な文章でわかりやすい。

注意：

出版各社の許可を得て写真を掲載しております。無断で他への転載はできません。

この企画で紹介した本の感想をお寄せください。多くの方に紹介したい本、今後採り上げてほしい分野などの情報もお待ちしております。

骨導式 F M 補聴器を研究用に試作



このたび、滋賀県立聾話学校聴力検査室では、F M補聴器としても装用できる骨導式補聴器を試作してみました。

これまでも骨導式のF M補聴器がないか探していたのですが見つからなかったので研究用として試作することにしました。

ホナックF MシステムのF M受信機マイクロリンクが小型で扱いやすかったので接続を考えて補聴器にはホナック社製耳掛形補聴器スーパーフロント PPC-L4+を使用し、改造して振動子につなげました。実際の装用を想定すると、この補聴器をベビー形の補聴器と同様に肩に安全ピンなどで止める

ようにして装用することになるかと思えます。試作の結果次第ではマイクロリンクと接続可能な別の補聴器を個々の聴力や目的に合わせて選び、今回のような補聴器を作ったり、ヘッドバンド部に補聴器本体を取り付け、コードをバンドに沿わせることでヘッドバンドと一体となったタイプを作ることも技術的には可能に思われます。現在、聴力検査室で電波の受信状態や補聴器の特性を調べています。

写真左は送信機です。従来のF M送信機と使用方法は変わりません。外部入力を備えているのでテレビや各種音響機器との接続も可能になっています。またマイクと同時に使用も可能です。このような送信機の特徴は今回の試作品との接続においても変わらないものだと思います。

写真右は試作の骨導式補聴器です。補聴器 PPC-L4+の下部にF M受信機マイクロリンクを取り付けてあります。通常のマイクロリンクの操作方法と同様に、F M（送信機からの信号を優先）、F M + M（送信機からの信号と補聴器のマイクからの信号の両方）、M（送信機からの信号がOFFになり補聴器のマイクからの信号のみ）の切り替えはマイクロリンクのスイッチで行います。マイクロリンクを外せばもちろん従来の骨導式補聴器と同様になります。

ご注意：

今回ご紹介した骨導式補聴器はあくまで研究用の試作品です。この件に関するご質問等につきましては滋賀県立聾話学校 聴力検査室（下記の機関誌担当）まで電話、F A Xでお問い合わせください。

近畿教育オーディオロジー研究協議会

奈良県立ろう学校内

事務局長 中井 弘征

近畿教育オーディオロジー

TEL 0743-56-2921

研究協議会事務局

FAX 0743-56-8833

奈良県大和郡山市丹後庄町456

メール h-nakai@indigo.plala.or.jp



近畿教育オーディオロジー研究協議会ニュースへ

情報をお寄せください

〒520-3014 滋賀県栗東市川辺664 滋賀県立聾話学校 聴力検査室

村尾 敏則（近畿教育オーディオロジー研究協議会 機関誌担当）

TEL 077-552-1352（聴力検査室直通） FAX 077-554-1538

メール JZJ02634@nifty.ne.jp

